

十八町五十三間半至奈屋浦二里二十四町四間、從方座浦歷小方竈至朽木竈六里八町至三
里一十五町從三石至朽木古和浦三十四度一十五分五里二十一間至國界三里二紀伊國
牟婁郡錦浦

〔延喜式二十八〕諸國驛傳馬略○中

伊勢國驛馬鈴鹿廿正、河曲朝明、榎撫、各傳馬、朝明、河曲、鈴

〔日本後紀十三〕延曆二十四年十一月壬申、先是伊豆國掾正六位上山田宿禰豐濱奉使入京、至伊勢
國榎撫朝明二驛之間、就村求湯、有人與之、更復煖酒相飲、其後嘔吐、至伊賀國堺、豐濱從者死、豐濱情
知毒酒、勤加療治、至京遂死、

〔三國地志十〕伊勢桑名郡桑名驛。按、五十三驛ノ一ニシテ、慶長六年ノ公案アリ、天武紀所謂桑名
郡家ハ古ヘ東方西方ノ中間、益田莊ニアリト云、

〔信長公記三〕永祿十二年八月廿日、勢州表御馬を被出織田信長。其日桑名迄御出、翌日御鷹つかはさ
れ、御逗留、

〔勢陽雜記一〕一四日市、東海道の往還也、驛次舎五百軒餘、此湊貳町程遠淺也、大船は五町程沖にて
かゝる大風には不懸略○中市日、毎月六齋、四日、九日、十四日、十九日、廿四日、廿九日、但シ四日ヲ始る
故、四日市と云、

〔東海道名所記四〕四日市より石薬師まで二里半七町、御殿右にあり、ばまた村、あかぼり村、
右のかた松林のうち、に天照太神の社あり略○中、追分の町はづれ、左のかたは、參宮の人、松坂へゆ
く海道也、右の方は京海道なり、

〔三國地志二十〕三重郡神戶驛。按、神宮ノ官道ナリ、十日市場、小山、石橋、新町、茅町、地子町、川町、西
條、是ヲ呼テ神戶ノ町ト云、天正三年五月、織田信孝地子ヲ許シテ、初テ驛ヲ置、